

**CABLE WIRE**

**Publication Number:** 01-213912 (JP 1213912 A) , August 28, 1989

**Inventors:**

- KANDA MAMORU

**Applicants**

- KANDA MAMORU (An Individual), JP (Japan)

**Application Number:** 63-037606 (JP 8837606) , February 22, 1988

**International Class (IPC Edition 4):**

- H01B-007/00

**JAPIO Class:**

- 41.5 (MATERIALS--- Electric Wires & Cables)
- 44.4 (COMMUNICATION--- Telephone)

**Abstract:**

**PURPOSE:** To enable fixing or temporary fixing of cable wire to be carried out easily during its wiring process by forming adhesive layer on at least one side of the cable wire.

**CONSTITUTION:** Cable wire 1 is composed of core wires 2, 2 made of conductive material and a flexible vinyl covering 3 which covers the core wires through their entire length. An adhesive layer 4 is formed at the base as one side surface of the cable wire 1 and a peeling paper 5 is applied to the base of the adhesive layer 4 is a form easy to peel off. This structure enables fixing and temporary fixing of the cable wire to be carried out easily during its wiring process. As the cable wire is primarily self-adhesive, wiring and fixing of the cable wire can be carried out even when the wire is arranged in a blank space behind things, a narrow space and the inner space of a tubular body, where wire fixing with staples is difficult. (From: *Patent Abstracts of Japan*, Section: E, Section No. 850, Vol. 13, No. 525, Pg. 2, November 22, 1989 )

**JAPIO**

© 2005 Japan Patent Information Organization. All rights reserved.  
Dialog® File Number 347 Accession Number 2916312

(19) 日本国特許庁(JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平1-213912

(43) 公開日 平成1年(1989)8月28日

(51) Int. C1.<sup>5</sup>

H 0 1 B 7/00

識別記号

3 0 7

府内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 1 B 7/00 3 0 7

審査請求 未請求

(全3頁)

(21) 出願番号 特願昭63-37606

(22) 出願日 昭和63年(1988)2月22日

(71) 出願人 99999999

神田 守

東京都杉並区上荻4丁目14-31 西荻ハウス201

(72) 発明者 神田 守

東京都杉並区上荻4丁目14-31 西荻ハウス201

(54) 【発明の名称】ケーブルワイヤ

(57) 【要約】本公報は電子出願前の出願データであるため要約のデータは記録されません。

## 【特許請求の範囲】

(1) 少なくとも一側面に接着剤層を形成したことを特徴とするケーブルワイヤ。

(2) その長さ方向の一側面にフランジを設けこのフランジの下面に接着剤層を形成したことを特徴とする特許ルワイヤ。

## 【発明の詳細な説明】

本発明はいわゆる電線、電話線等のケーブルワイヤに関し、特にその配線時の操作性を著しく簡便にしたケーブルワイヤに関する。

## (従来の技術)

一般にこの種ケーブルワイヤは、導電性の芯線をビニール、ナイロン等の柔軟性樹脂または織布等で被覆した構成となっている。

通常このようなケーブルワイヤは必要が生じたときに壁面や床面等にコ字状のステープルや粘着テープ等を使用して配線固定するものであるが、その配線作業時においては引力の影響を受けたりケーブルワイヤ自体が有する弾性の癖の影響を受けその作業性は極めて劣悪である欠点を有していた。

特に壁面配線を整然とスマートに行う場合においては、ミス無く所定の距離毎にステープルで固定していくか、数人の手により押さえて位置を決めていく操作を行わなければならず熟練した経験者であっても気を遣う煩わしい作業となっているものであった。また開放された場所への配線固定はなんとか対応できても、物陰等の陰影部や手の届かない高所、手の入らない管状対内に配線を行いたい場合等においては従来のこの種ケーブルワイヤでは対応できない場合が発生する恐れも有していた。さらにこの種ケーブルワイヤは通常小さな曲がり癖が略全長に亘り発生しており、上述したような通常の配線固定をした場合には小さな蛇行が多数発生し外観上極めて見苦しく、また材料も金分に消費してしまう欠点も併せ有しているものであった。

## (発明の目的)

本発明は上記欠点を解消したもので、ケーブルワイヤ配線時の固定または仮固定を極めて簡便に行い得るように構成したケーブルワイヤを提供することを目的とする。また、本発明は従来不可能であった物陰や細い管状体内への配線固定も容易に行い得るケーブルワイヤを提供することを目的とする。

さらに、本発明は必要に応じて曲がり癖がついたケーブルも矯正しながら整然と配線固定することを可能にしたケーブルワイヤを提供することを目的とする。

以下、本発明の第1の実施例を図面第1図を参照して詳細に説明する。図において(1)はケーブルワイヤを示す。このケーブルワイヤ(1)は導電性材料で形成された芯線(2)、(2)と、この芯線(2)をその全長に亘り被覆した柔軟性ビニールカバー(3)とを有している。(4)は接着剤層である。この接着剤層(4)

は前記ケーブルワイヤ(1)の一側面である底面に形成されている。(5)は剥離紙である。この剥離紙(5)は前記接着剤層(4)の底面に剥離可能に貼着されている。

次に上記構成ケーブルワイヤの使用方法を説明する。まず第1図に示すように剥離紙(5)を剥離し、配線希望場所に接着剤層(4)を当接し上から押圧する。この操作により配線開始点は配線希望場所に固定される。その後剥離紙(5)を剥離しながらケーブルワイヤ(1)を

10 押圧していくことにより配線固定は継続される。このときケーブルワイヤ(1)自体が有している曲がり癖を矯正する場合は接着をする都度指または定規等で矯正しながら固定していくことにより整然とスマートに配線固定が行われる。さらに、その後必要に応じてステープルで固定したりガムテープで被覆固着することにより配線は完了される。

次に図面第2図(a)を参照して本発明ケーブルワイヤの第2の実施例を説明する。図において(6)はケーブルワイヤを示す。このケーブルワイヤ(6)は、隣接する2面が直角に形成されており、この2側面に各々接着剤層(4)、(4)が形成されている。

本実施例の使用方法は上記第1の実施例と同一のためその説明を省略するが、本実施例によると例えば床、壁面の境界隅部に配線する場合に特に好適に使用され得る。

次に図面第2図(b)を参照して本発明ケーブルワイヤの第3の実施例を説明する。図において(7)はケーブルワイヤを示す。このケーブルワイヤ(7)はその両側にフランジ(8)、(8)を有している。接着剤層(4)はこのフランジ(8)、(8)の底面の全面

30 に形成されている。

本実施例によれば、接着剤層(4)の面積は著しく広くなるため接着力もより強力になる。

尚、上記実施例においては、ケーブルワイヤの全長に亘り接着剤層を形成したものについて説明したがこれに限定されるものではなく、例えば仮固定が目的の場合や強い固定力を必要としない場合等においては、所定の間隔をもって接着剤層を配置形成したものであっても良い。

また、接着剤は上記実施例中においては特に規定していないものであるが、用途が特定されている場合や接着面の材質が特定されている場合等においてはその材質に最も適した専用の接着剤を使用したものであっても良い。さらに種々の接着面に対応させるために比較的厚めの粘弹性ゲル状の接着剤やエンボス加工を施したシート状の接着剤を使用したものであっても良い。

## (発明の効果)

以上の説明で明らかに本発明ケーブルワイヤによれば、その一側面に接着剤層を形成した構成としたため、配線におけるケーブルワイヤの固定、仮固定が著しく簡便に行える効果を有する。また本発明ケーブルワイヤは基本的に自己接着性を有しているため、ステープル

での固定が困難な物陰や狭所および管状対の内部等に配線する場合においても配置するのみで配線固定することが可能となる効果を有する。

特に実施例のようにケーブルワイヤの全長に亘り接着剤層を形成した構成にすると固定保持効果が増大するとともに小さな曲がり癖も矯正しながら配線固定することが可能となる効果を有し、配線完了後の外観上も見やすく整然とし、材料の無駄も抑制することが可能となる効果を併せ有する。

また、第2の実施例のように、直角に隣接する2面に接着剤層を形成した構成にすると壁、床面の境界隅部に配線する場合極めて効率良く、スマートに固定することが可能となる効果を有する。

さらに、第3の実施例のようにケーブルワイヤの側面にフランジを設けこのフランジの下面に接着剤層を形成した構成にすると接着面積が広くなるため固定力も著しく増大し、他の固定手段と併用しなくとも確実な配線固定が可能となる効果を併せ有するものである。

【図面の簡単な説明】

第1図は本発明ケーブルワイヤの第1の実施例を示す一部断面斜視図である。第2図(a)は同第2の実施例を示す断面図、第2図(b)は同第3の実施例を示す断面図である。

(1)、 (6)、 (7) . . . . . ケーブル  
ワイヤ。  
(2) . . . . . 芯線、 (3) . . . . . ビニールカバー。  
(4) . . . . . 接着剤層、 (5) . . . . . 剥離紙。  
(8) . . . . . フランジ。

30

特許出願人 神 1) 守

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開  
 ⑪ 公開特許公報 (A) 平1-213912

⑫ Int.Cl. 4 識別記号 ⑬ ⑭ 施用番号 ⑮ 公開 平成1年(1989)8月28日  
 H 01 B 7/00 307 7364-5G

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑯ 発明の名称 ケーブルワイヤ

⑰ 特 願 昭63-37606  
 ⑱ 出 願 昭63(1988)2月22日

⑲ 発 明 者 神 田 守 東京都杉並区上荻4丁目14-31 西荻ハウス201  
 ⑳ 出 願 人 神 田 守 東京都杉並区上荻4丁目14-31 西荻ハウス201

目次

1. 発明の名称

ケーブルワイヤ

2. 特許請求の範囲

(1) 少なくとも一側面に接着剤層を形成したことを特徴とするケーブルワイヤ。  
 (2) その長さ方向の一側面にフランジを設けこのフランジの下面に接着剤層を形成したことを特徴とする前記特許請求の範囲第1項記載のケーブルワイヤ。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はいわゆる電線、電話線等のケーブルワイヤに関し、特にその配線時の操作性を著しく簡便にしたケーブルワイヤに関する。

(従来の技術)

一般にこの種ケーブルワイヤは、導電性の芯線をビニール、ナイロン等の柔軟性樹脂または織布等で被覆した構成となっている。通常このようないケーブルワイヤは必要が生じたときに壁面や床面等にコ字状のステープルや粘着テープ等を使用して配線固定するものであるが、その配線作業時においては引力の影響を受けたりケーブルワイヤ自身が有する弾性の縮の影響を受けその作業性は極めて劣悪である欠点を有していた。特に壁面配線を整然とスマートに行う場合においては、ミス無く所定の距離毎にステープルで固定していくか、敵人の手により押さえて位置を決めしていく操作を行わなければならず熟練した経験者であっても気を遣う煩わしい作業となっているものであった。また開放された場所への配線固定はなんとか対応できても、物陰等の陰影部や手の届かない高所、手の入らない管状対内に配線を行いたい場合等においては従来のこの種ケーブルワイヤでは対応できない場合が発生する恐れも有して

## 特開平1-213912 (2)

いた。さらにこの種ケーブルワイヤは通常小さな曲がり癖が略全長に亘り発生しており、上述したような通常の配線固定をした場合には小さな蛇行が多発し外観上極めて見苦しく、また材料も余分に消費してしまう欠点も併せ有しているものであった。

## (発明の目的)

本発明は上記欠点を解消したもので、ケーブルワイヤ配線時の固定または仮固定を極めて簡便に行い得るように構成したケーブルワイヤを提供することを目的とする。

また、本発明は從来不可能であった物陰や細い管状体内への配線固定も容易に行い得るケーブルワイヤを提供することを目的とする。

さらに、本発明は必要に応じて曲がり癖がついたケーブルも矯正しながら整然と配線固定することを可能にしたケーブルワイヤを提供することを目的とする。

正する場合は接着をする都度指または定規等で矯正しながら固定していくことにより整然とスマートに配線固定が行われる。さらに、その後必要に応じてステープルで固定したりガムテープで被覆固定することにより配線は完了される。

次に図面第2図(a)を参照して本発明ケーブルワイヤの第2の実施例を説明する。図において(6)はケーブルワイヤを示す。このケーブルワイヤ(6)は、開接する2面が直角に形成されており、この2側面に各々接着剤層(4)、(4)が形成されている。

本実施例の使用方法は上記第1の実施例と同一のためその説明を省略するが、本実施例によると例えば床、壁面の境界部に配線する場合に特に好適に使用され得る。

次に図面第2図(b)を参照して本発明ケーブルワイヤの第3の実施例を説明する。図において(7)はケーブルワイヤを示す。このケーブルワイヤ(7)はその両側にフランジ(8)、(8)を有している。接着剤層(4)はこのフランジ(

## (発明の実施例の説明)

以下、本発明の第1の実施例を図面第1図を参照して詳細に説明する。図において(1)はケーブルワイヤを示す。このケーブルワイヤ(1)は導電性材料で形成された芯線(2)、(2)と、この芯線(2)をその全長に亘り被覆した柔軟性ビニールカバー(3)とを有している。(4)は接着剤層である。この接着剤層(4)は前記ケーブルワイヤ(1)の一側面である底面に形成されている。(5)は剥離紙である。この剥離紙(5)は前記接着剤層(4)の底面に剥離可能な状態で接着されている。

次に上記構成ケーブルワイヤの使用方法を説明する。まず第1図に示すように剥離紙(5)を剥離し、配線希望場所に接着剤層(4)を当接し上から押圧する。この操作により配線開始点は配線希望場所に固定される。その後剥離紙(5)を剥離しながらケーブルワイヤ(1)を押圧していくことにより配線固定は継続される。このときケーブルワイヤ(1)自体が有している曲がり癖を矯

正する場合は接着をする都度指または定規等で矯正しながら固定していくことにより整然とスマートに配線固定が行われる。

本実施例によれば、接着剤層(4)の面積は著しく広くなるため接着力もより強力になる。

尚、上記実施例においては、ケーブルワイヤの全長に亘り接着剤層を形成したものについて説明したがこれに限定されるものではなく、例えば仮固定が目的の場合や強い固定力を必要としない場合等においては、所定の間隔をもって接着剤層を配置形成したものであっても良い。また、接着剤は上記実施例中においては特に規定していないものであるが、用途が特定されている場合や接着面の材質が特定されている場合等においてはその材質に最も適した専用の接着剤を使用したものであっても良い。さらに種々の接着面に対応させるために比較的厚めの粘弾性ゲル状の接着剤やエンボス加工を施したシート状の接着剤を使用したものであっても良い。

## (発明の効果)

以上の説明で明らかのように本発明ケーブルワ

## 特開平1-213912(3)

イヤによれば、その一側面に接着剤層を形成した構成としたため、配線時におけるケーブルワイヤの固定、仮固定が著しく簡便に行える効果を有する。また本発明ケーブルワイヤは基本的に自己接着性を有しているため、ステークルでの固定が困難な物陰や狭所および管状物の内部等に配線する場合においても配置するのみで配線固定することが可能となる効果を有する。

特に実施例のようにケーブルワイヤの全長に亘り接着剤層を形成した構成にすると固定保持効果が増大するとともに小さな曲がり癖も矯正しながら配線固定することが可能となる効果を有し、配線完了後の外観上も見やすく整然とし、材料の無駄も抑制することが可能となる効果を併せ有する。また、第2の実施例のように、直角に隣接する2面に接着剤層を形成した構成にすると壁、床面の境界部に配線する場合極めて効率良く、スマートに固定することが可能となる効果を有する。さらに、第3の実施例のようにケーブルワイヤの側面にフランジを設けこのフランジの下面に接着

剤層を形成した構成にすると接着面積が広くなるため固定力も著しく増大し、他の固定手段と併用しなくても確実な配線固定が可能となる効果を併せ有するものである。

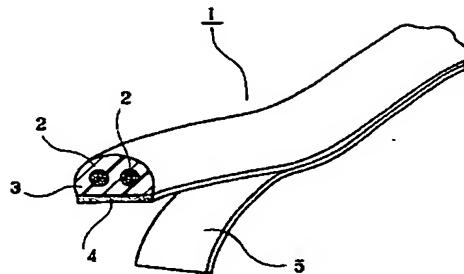
## 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明ケーブルワイヤの第1の実施例を示す一部断面斜視図である。第2図(a)は同第2の実施例を示す断面図、第2図(b)は同第3の実施例を示す断面図である。

- (1), (6), (7) ……ケーブルワイヤ、
- (2) ……芯線、(3) ……ビニールカバー、
- (4) ……接着剤層、(5) ……剥離紙、
- (8) ……フランジ。

特許出願人 神田守

第1図



第2図

